

令和8年度病虫害発生予察特殊報第2号

令和8年7月15日
愛知県

1 雑草名 オオバナミズキンバイ（特定外来生物）

Ludwigia grandiflora (Michx.) Greuter & Burdet

2 発生作物 水田作物（休耕田）

3 発生地域 西三河地域

4 発生確認の経過

令和8年6月中旬、西三河地域の水田（休耕田）で本種と疑われる雑草の発生が確認された（写真1～4）。専門家に同定を依頼したところ、オオバナミズキンバイ（広義）であることが確認された。発生を確認した本種は駆除、焼却処分済みである。

5 国内での発生状況

日本では、令和7年10月時点で本県を含めた13府県に侵入が確認されている。また本県では、令和7年7月に豊田市内の河川において本種が確認された。

6 本種の生態

- (1) 本種は南米及び北米南部原産のアカバナ科の多年生雑草である。
- (2) 生活環境に応じて、浮葉形、抽水形、陸生形を示し、陸地から水辺までの環境に適応する。
- (3) 開花期は6～10月である。種子繁殖と栄養繁殖により残存した植物体（根を含む）から再生する。
- (4) 植物断片からの再生能力が高い。また、実の中に数十個の種子ができ、落下した実は水面に浮き、植物断片と同様、水によって分散する。
- (5) 冬季は低温で大半が枯死するが、生き残った茎断片から発根、再生する。
- (6) 種子は耐寒性が高く、泥土に埋没し越冬することで休眠打破すると考えられている。

7 形態的特徴

花は、花弁5枚の黄色い花で、先端がやや凹む。径は4～5cmである（写真2）。

葉は茎に交互につき（互生）、葉の縁には細毛がある。地上茎の葉の基部付近には、暗褐色～深緑色の突起状の小片（托葉、たくよう）が目立つ。地上茎には粘る毛が密生している（写真3、4）。

県内水田においては、花が似ているヒレタゴボウが発生しているが、ヒレタゴボウは花弁4枚の黄色い花で、径は2cm程度である（写真5）。

8 被害

- (1) 農業水利施設に侵入した場合、通水障害などを引き起こすおそれがある。
- (2) 水上と水中にマット状に厚く繁茂し、作物の生育を阻害する。

9 防除対策

- (1) 休耕田においては、非選択性茎葉処理型除草剤で防除する（表）。水田畦畔においては、刈払い（機械除草）による除草は、茎断片の拡散を助長するため避け、除草剤で防除する（表）。
- (2) 植物断片の水田への侵入及び水田からの流出防止のため、取水口及び排水口にネット等を設置する。
- (3) 農機具に付着した本種を含む土等から拡散する恐れがあるため、本種の発生していないほ場から作業を開始する。また、本種の発生しているほ場での作業後は、他のほ場へ移動する前に農機具（ロータリー等）の土（草）をしっかりと落とす。
- (4) 手取り除草をする際は、断片の発生に注意しながら、根も茎葉とともに除去する（10 本種への対応にかかる注意点 参照）。除去した植物体をその場で枯らす場合、袋に密閉して厚手のブルーシートの上に置くなどして枯らし、自治体のごみ処理方法にしたがって処理する。

10 本種への対応にかかる注意点

本種は外来生物法の特定外来生物に指定されており、拡散を防ぐため、生きたままの栽培、保管、運搬、野外への放出・植栽が禁止されている。また、駆除を実施する際に手続き等が必要になる場合があるため注意が必要である。詳しくは環境局環境政策部自然環境課または所管の県民事務所等環境保全課に問い合わせる。

11 連絡先

- (1) 本特殊報に関すること
農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室（電話 0561-41-9513）
- (2) 水田や畑（農地）での防除に関すること
農業総合試験場普及戦略部技術推進室（電話 0561-41-8966）
- (3) 農地以外での発生に関すること
環境局環境政策部自然環境課（電話 052-954-6230）、所管の県民事務所等環境保全課または市町村の環境関連部署

参考資料

- (1) 環境省「特定外来生物の見分け方（同定マニュアル）」
- (2) 農林水産省「外来種等が農業水利施設に及ぼす影響と対策の手引き（改訂版）令和7年3月版」
- (3) 農林水産省ウェブサイト「水路やため池の通水障害を起こす外来生物の見分け方_オオバナミズキンバイ」https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/gairai_soukihakken_oobanamizukinbai.html
- (4) 琵琶湖外来水生植物対策協議会「オオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの防除の手引き ～琵琶湖および周辺地域での対策事例から～ 2025年3月（改訂版）」
- (5) 豊田市矢作川研究所 矢作川研究 No30「愛知県豊田市内の西中山川と御船川における特定外来生物オオバナミズキンバイの県内初記録と早期防除について」
- (6) 農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル 令和5年3月（令和7年3月改訂）」
- (7) 植調 第60巻第1号「鹿児島県の水田畦畔における特定外来生物オオバナミズキンバイの防除技術」



写真1 オオバナミズキンバイの様子



写真2 花（黄色の花弁5枚）

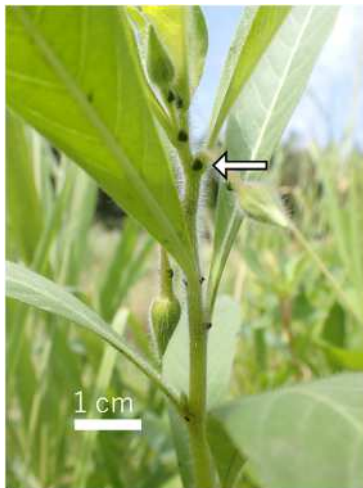


写真3 葉（互生），托葉（矢印）



写真4 茎（毛が密生），托葉（矢印）



写真5 ヒレタゴボウの花（黄色の花弁4枚）

表 オオバナミズキンバイに対する主な除草剤（令和8年7月15日時点）

作物名	農薬名	農薬の種類	適用病害虫雑草名	使用時期	本剤の使用回数※1
水田作物、畑作物（休耕田）	ラウンドアップ マックスロード	グリホサートカリウム塩液剤	多年生雑草	雑草生育期	3回以内
水田作物（水田畦畔）	ラウンドアップ マックスロード	グリホサートカリウム塩液剤	多年生雑草	収穫前日まで（雑草生育期）	3回以内
水田作物（水田畦畔）	2,4-D「石原」7ミソ塩	2,4-PA液剤	一年生及び多年生広葉雑草	雑草生育期（草丈30cm以下）但し収穫30日前まで	3回以内

※1 成分ごとの総使用回数に注意する

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項（登録内容や使用上の注意事項など）を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。